



かまくら

鎌倉の大仏は、だれが、何のために作ったの



かまくらばくふ
鎌倉幕府がつくったようだが、その目的、完成した年など、わからないことが多い大仏だよ。

「鎌倉の大仏」とは、高徳院（正式には大異山高徳院清浄泉寺）の本尊である、阿弥陀如来坐像のよび名です。この大仏についての記録は少なく、つくった目的、完成した年、なくなった大仏殿のことなど、わからないことがたくさんあります。お寺の言い伝えでは、奈良の大仏を参拝して感動した源頼朝夫妻が、鎌倉にも大仏をつくらうと計画し、夫妻の死後、頼朝に仕えていた稲田野局という老女がつくったことになっているそうです。

最初につくった大仏は、木造らしい

大仏づくりを進めたのは、鎌倉幕府のようで、幕府のお金や、浄光という僧が集めた寄付によって、つくられました。1243年に完成しましたが、その時の大仏は、今の金銅の大仏とはちがって、木造の大仏だったようです。

すぐに金銅の大仏づくりを始めた

金銅の大仏をつくり始めたのは、1252年です。木造の大仏が完成してから、10年もたっていないのに、なぜ、金銅の大仏に変えようとしたのかは、わかりません。大あらしで木造の大仏がこわれたからという説や、木造の大仏は金銅の大仏の鑄型だったという説などがあります。完成まで、かなりの年月がかかったようですが、完成した年はわかりません。初めは大仏殿の中にありましたが、その大仏殿は、大風などでたびたびこわれ（津波でこわれたという記録もある）、室町時代に、今のような雨ざらしの大仏になったようです。

